




切りかえが苦手



「帰ろう」って
何度も言っている
のに…

 **まず、その場では…**

- 1 次の活動の道具を見せ、誘導する
- 2 箱にひとつずつおもちゃを入れるなど、活動の終わりをきちんとした形で伝える

やってみよう!

わかりやすく終わりを予告する

終わりの少し前に予告することで切りかえのきっかけをつくります。時計などで視覚的に伝えたり、タイマーやベルなどを使い音で知らせるとわかりやすいでしょう。また、「あと5回でおしまいです」と回数で区切りをつけたり、「10数え終わったら終わりね」と指でカウントダウンをするのもよいでしょう。

終了の仕方を教える

自分でおもちゃを片付けることを教えます。自分で片付けることで「終わり」がわかり、次の活動の「始まり」に気付くきっかけにもなります。片付け場所にラベルを貼るなど、自分で片付けがしやすいような環境を整える工夫が大事です。

目で確認できる予定表をつくる

なかなか切り上げられないのは、今何をする時間なのかわかっていないことが多いです。予定表をもちいて、あらかじめ予定を伝えることで、今日やる活動を何回でも確認でき、それが安心感につながります。

切りかえができていない人に 注目させる

行動の切りかえが難しい背景として、周りの人と合わせることの苦手さが関係していることもあります。例えば兄弟など、周りの人を見て人と合わせることに注意を向けられるよう、時々周囲を見るように促すことも必要です。

NG!

せかす、強制的に終わらせる

好きな活動に集中しているときは、他のことが考えられなくなってしまうものです。ただせかされても、子どもは次に何をしようかわからず、不機嫌になったり混乱したりします。パニックを引き起こしてしまうと、かえって気持ちの切りかえに時間がかかってしまいます。

言葉だけで「おしまい」と繰り返す

単に「おしまい」という言葉は知っていても、その意味を理解していない場合もありますし、遊びに集中していると言葉だけでは耳に届かない場合もあります。